allcinema

巴里の女性（1923）

A WOMAN OF PARIS

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 81分
初公開日 1924/10
公開情報 劇場公開

【解説】

冒頭、この映画には私は出演していないと、チャップリンの断りが出る。監督に専念しての初めての非喜劇は正攻法の演出で堂に入ったもの。いわゆる、すれ違いメロドラマの王道の設定を使いながら、ブルジョワの虚栄に満ちた暮らしへの攻撃の矛先も緩めてはいない。

フランスの田舎町。父に会うことを禁じられている恋人ジャンと駆け落ちを決心したマリーは、停車場で彼の到着を待つ。ところが、両親を説得していざ出かけようとしたとき、ジャンの父が急逝し、彼は約束を反故にしてしまう。怒った彼女はそのままパリに出て、社交界をうまく渡って贅沢な生活も手に入れる。現在の恋人はパリきっての伊達男で富豪のピエールだが、別の女との婚約の記事が新聞に載って気が気でないマリー。しかし、記事の相手と彼女と両天秤かけていたピエールも、恋敵が登場とあっては宗旨を変える。マリーは今や画家としてスタートを切ったジャンに再会したのだ。彼女は彼に肖像画を依頼する。しかし、着飾った彼女を、彼は“理想”のフィルターをかけて見ていた。絵に描かれたのは、質素な装いの昔の自分だった。マリーの心は揺れる。このままピエールの求婚を受け入れるべきか、ジャンと出直しを図るか……。が、抗い難い富の魅力に負けたマリー。そして、そのさまを見て絶望したジャンは拳銃自殺してしまう……。

【クレジット】

監督	チャールズ・チャップリン	Charles Chaplin
製作	チャールズ・チャップリン	Charles Chaplin
脚本	チャールズ・チャップリン	Charles Chaplin
撮影	ロリー・トザロー	Rollie Totheroh
	ジャック・ウイルソン	
出演	エドナ・パーヴィアンス	Edna Purviance
	カール・ミラー	Carl Miller
	アドルフ・マンジュー	Adolphe Menjou
	クラレンス・ゲルタード	Clarence Geldart
	リディア・ノット	Lydia Knott
	チャールズ・フレンチ	Charles French
	ベティ・モリシー	Betty Morrissey

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.